

株式会社スプレッド

所在地 京都府京都市下京区中堂寺栗田町 93 番地
KRP6 号館
URL <https://spread.co.jp/>

農業と地域の未来を広げるフードインフラを世界に

大規模自動植物工場として、京都野菜の高い品質管理から生まれた栽培技術とテクノロジーを組み合わせた唯一無二の食料生産システムを展開。農業を使わずクリーンなレタスを通年生産し、高い生産歩留まりや水のリサイクル技術を活用して、人と地球にやさしい食料生産を実現。世界最大級、日産 10 トンのテクノファーム袋井も稼働を開始。国内スーパーを中心に、レタス販売実績も 1 億食を突破。いちごや代替肉、穀物の研究開発も行っている。

会社概要

◆ 事業概要

京都府京都市に本社を置く株式会社スプレッドは、2006 年創業の京都発のフードテック企業である。人工光型植物工場の開発・運営を進めつつ、工場内で収穫された野菜の販売を行う。商品の質を高めるための研究開発に、安定的な工場運営に欠かせない技術開発、そして収穫された野菜に新たな価値を与える商品開発と、3 つのチームで統合開発体制を構築。また野菜の生産から流通・販売まで、すべての工程を社内で行うことで、より安定した食物供給システムの実現を狙う。

気候変動による野菜の収量低下や、急激なスピードで進む生産者数の減少など、日本の農業が抱える課題は深刻である。また世界に目を向けても、人口増加に食料不足、国際情勢の変化によるサプライチェーンの混乱など、課題は決して少なくない。こうした課題を解決するための一手として同社が選択したのが、天候などの外的環境に影響されない自動化を取り入れた次世代型農業生産システムである。2024 年現在、日本国内にて、自社工場とパートナー工場、JV 工場と合計 3 つを展開中だ。播種から収穫までの工程をできる限り自動化し、大規模な環境制御にも成功している。主にレタスなどの葉菜類を栽培しており、収穫された高品質野菜は全国各地のスーパーを中心に販売している。主力商品である「ベジタス」シリーズは、発売開始から 15 年で累計販売数 1 億パックを突破している。

特徴・強み

【次世代植物工場テクノファーム】



◆ ビジネスモデルの特徴と企業の強み

人工光型植物工場という安定した環境の中、青果の安定的かつ効率的な大量生産に成功している株式会社スプレッド。同社が運営する「テクノファームけいはんな」は、世界で初めて日産 3 万株のレタスの自動化栽培を実現した。全行程 70% の自動化を実現し、大規模環境制御により 97% という非常に高い生産歩留まり率を達成している。天候や労働力に左右されず、生育期間は 33 日間。生産量は日産 3 トンを達成した。世界中どこでも野菜の栽培が可能な仕組みは、持続可能な食料生産システムとして各方面より高く注目されている。

また生産された青果について、その加工・流通・販売まで、すべてのバリューチェーンにおける業務運営が一元管理されているのも、同社のビジネスモデルの特徴だ。収穫した青果の加工領域は特に注目されており、工場で栽培されたクリーンな野菜の強みを最大限に発揮できる加工技術「テクノフレッシュ」を開発した。従来のカットレタスの消費期限が 3 日程度である

のに対して、テクノフレッシュでは業界最長の6日を実現。労働力や水資源の削減にも成功している。

◆ 強み・アピールポイント

世界が抱える食料課題を解決するため、植物工場の運営に乗り出す企業は決して少なくない。競合他社も多い中、株式会社スプレッドの強みは高い技術力にある。海外展開よりも、まずは国内拠点での技術力向上に注力した結果、レタス栽培を自動化するためのノウハウを獲得。亀岡プラントでの生産歩留まりが99%を達成するなど、圧倒的な実績を作っている。同社の歩留まりは、当初30～40%であったという。前例がない中、地元で農家を営むパート社員とともに試行錯誤を繰り返し、確かなノウハウを獲得してきた。単純に建物だけを真似しても、同様の成果は出せないというその仕組みこそが、同社の価値を唯一無二のものにしている。

【栽培データを活用し、成長に最適な環境を実現】



起業に至った経緯

◆ 事業にける想い

株式会社スプレッドは、もともと青果流通事業を営んでいた稲田信二氏が代表となり、立ち上げた会社である。事業のために各地で生産者と関わる中、収量の低下や気候変動の影響など、農家が抱える課題に直面。ある生産者が口にした「自分の代で終わりにする」という言葉に衝撃を受け、生産にまつわる課題を解決しようと思ったのが、起業のきっかけである。

気候変動の影響を最小化するためには「植物工場」という仕組みが最適だと考えながらも、代表自身も当初はその存在に懐疑的であったという。マンションの

1室で研究開発を始め、2006年に創業。2007年に当時世界最大規模であった亀山プラントを稼働させ、試行錯誤を繰り返した。パート社員を含めた企業全体での努力が実を結び、大量生産のための独自ノウハウを確立。2013年には、ついに工場単体での黒字化に成功した。

2018年には「自動化」にこだわったテクノファームけいはんな、2021年には「多段化」にこだわったテクノファーム成田、そして2024年には「巨大化」をテーマにしたテクノファーム袋井を稼働。「地球がもたらす食の恵みを、創造性をもって最大化する」をミッションに掲げ、着実に成長している。

◆ 今後の事業展開

2024年3月より、持続可能性と健康的な暮らしをテーマにした“未来への食づくり”を目指す新ブランド「INDOOR」を展開。植物工場栽培野菜の魅力を、より強く消費者へと伝えていく。『INDOOR LEAF』は洗わずに食べられ、これまでよりもレタスの株を大きくし、紙包材を使用した保存もしやすい商品。お得感と使いやすさを打ち出した商品も新ブランドならではの特徴だ。

株式会社スプレッドは、2030年ごろまでの長期目標として、国内でのレタス日産100トン達成を掲げている。海外展開やイチゴの生産についても視野に入れており、今後も時機を見ながらもパートナー企業と共同でアップデートを進めていく予定である。

【新ブランド INDOOR LEAF】

